

歯科技工部門の素顔拝見

診療支援部歯科技工部門 田中正信

はじめまして歯科技工部門の田中正信と申します。

総診技工室と私たちの技官控室がお隣なので歯学科の6年生はよく顔を見かけていると思います。がそれも病院新外来棟への新築移転で11月までになってしまいます。この歯学部ニュースが発行される頃には、新外来棟への引越しも終わっているはずですよ。

本来の「技工部だより」ですと、歯科技工部門の業務内容の紹介や新外来棟への移転などの話題にするべきなのですが、「技工部だより」も4回目なので技工の業務紹介はバックナンバーを見ていただき、新外来棟への移転の話題はどなたかが紹介すると思いますのでそちらにお任せすることにします。そこで今回は私自身の趣味の話題にさせていただきます。

趣味は他にもあるのですがこんなに長く熱中できた趣味それは、「自転車」です。ラブチャリオジサンなんです。20代なかばから20年も続けています。ここからは古い話です。

趣味としての自転車を始めたきっかけは、大学病院への通勤用にと当時流行のマウンテンバイク「MTB」を入手して楽しんでいたのですが、1週間もしない内にMTBの調子が悪いことに気づき（強くペダルを踏むとズルッとすべるんです。）購入した池袋のデパートに持ち込んだのですが原因が分からず問題なしの回答です。それでも「ズルッ」の症状は時々顔をだします。納得のいかない私は、書店に駆け込み「MTBのすべて」なる本を購入して勉強しました。しかしこの本にはMTBの組み付け調整方法の他に魅力的なカタログが付いていました。なかでもカタログに載っているパーツ類の虜になった私は給料が出たら1



つまた1つとお気に入りのパーツに交換することで、調子の悪いMTBをカッコ良く見せることに夢中になっていたのです。たしか3回目のパーツ交換の時でした、クランクセットの交換です。「ペダルがくっつく棒状で中心にギザギザの歯が付いた三枚重ねの円盤状のヤツ」ついでにチェーンも交換してしまえと「MTBのすべて」に書いてある手順に従ってパーツ交換をすませ試し乗りをしたところ、今までペダルを強く踏むと現れる「ズルッ」がウソのように消えてペダルを踏む力が無駄なくスピードに変換されるようになったのです。パーツ交換するだけでこんなに調子が変わるものなのと、不思議に思い交換した古いパーツと新しいパーツを見くらべていると例の「ズルッ」の原因が分かりました。古い最初から付いていたチェーンが適切な長さより4コマも余計に長いために、変速器が正しくチェーンを引っ張れずにいたのです。この件を境に私の自転車への意識が大きく変わります。

自転車は購入店に頼らず自分自身がとことんメンテナンスをする事にしました。その後MTBのパーツ交換にあきたらなくなると今度はロードレーサーへ触手を伸ばします。そしてまたパーツ

交換三昧、しかし古いパーツを外して新しいパーツに交換する、この方法ですと効率が悪い事に気づきフレーム（骨組み）からパーツを組み付ける方法に楽しみ方が変わっていきます。いつしか六畳1Kの狭いアパートの中は、自転車とフレームと自転車のパーツなどで足の踏み場がない状況になるのにさほど時間はかかりませんでした。

東京にいる頃は自転車に乗る事よりも組み付け調整が楽しみの醍醐味と思っていたので、どんなに乗っても一日100km程度サイクリングでしたが新潟大学への移動を期に自転車に乗る事にしたいに楽しみがシフトしていきます。東京に比べると新潟の郊外は自転車に乗るのに理想的な道路環境である事と、海岸・街並み・田園・河川・山岳と素晴らしい景観の変化を楽しみながら自転車を走らせていると自然と走行距離が伸びていきます。今では時間がゆれば週末に150km~200km程度のサイクリングを楽しんでいます。

自転車仲間

新潟大学でお世話になって今年で10年目になりますが、趣味の自転車的に最大の収穫は、一緒にサイクリングを楽しむ自転車仲間恵まれたことです。なかでも矯正科の小原先生には大きな影響を受けました。学生時代から旅を楽しむサイクリストであることを噂で聞いていたので、思い切って日帰りサイクリングにお誘いして以来、約8年来の自転車仲間です。積極的にサイクリングイベントに参加するアクティブさや、一緒に走る後輩たちへの面倒見の良さにはいつも関心させられます。いつしか私も仲間に加わらせてもらい（メンテナ

ンス担当として）20歳以上も歳の違う学生さん達と一緒に走る機会に恵まれたのは、小原先生の存在なしでは有り得ないことです。

大学に駐輪してある「それっぽい自転車」スポーツサイクルには自然と注目してしまうのが自転車好きの宿命です。ある日そんな調子で注視していると危機的状態のMTBを発見、そのMTBの特徴を先輩方につげると「それは山村先生の自転車だよ」持ち主が判明、御節介にも私は教授就任前の山村教授に「先生のMTBは部品交換と整備が必要です。」と進言すると素直に聞き入れてくださり、すぐに自転車店で整備し安全に乗れる状態に。

その後も山村教授が素直に聞き入れてくれるのをいい事に2台も自転車を作らせて所有台数を増やして、自転車の保管場所に困ってしまう状況を作っていました。

山村教授は渓流を愛する釣り人であることは学内でも有名ですが、山村教授が渓流釣りを楽しんでいるところに私が自転車で押しかけて合流し、午後からはサイクリングを楽しむフィッシング&サイクリングを昨年実現できたのは、とても楽しく新鮮な体験でした。

今後も〇〇〇〇〇〇&サイクリングみたいなものを考えてみたいな~と思っています。

歯科技工部門内にも最近の自転車ブームの影響か、私の活動(?)が認められたのか、木村部門長と先輩の熊倉さんがロードレーサーを入手したので、サイクリングを一緒に楽しむようになりました。



佐渡・新穂にてトキと一緒に（トキが後ろに小さく写ってるんです）。左から福田さん、熊倉さん



村松公園にて。左から山村教授、広野さん、福田さん

先輩の熊倉さんはロードレーサーの他に20年以上前から MTB を所有してはいたのですが、ほとんど乗ることはなく物置の肥やしになっていた、その MTB を整備し復活させて天気の良い日にはできるだけ自転車に乗るように習慣づけたところ体重がどんどん減りはじめ約半年間で10kgのダイエットに成功し益々自転車に乗ることが楽しくなったようです。今は来年春のスポニチ佐渡ロングライド210（佐渡島1週210kmを走るサイクルイベントなのですが、サイクルイベントで100km以上の走行経験の証明がないと1週210kmへの参加が認められない。）への参加資格獲得にむけて、秋のグランfond糸魚川にエントリーをしたところです。このグランfond糸魚川なのですが、走行距離は130kmなので楽に走れると思いきや累積標高が2,000m以上（*例130km走行する間に弥彦スカイラインを4回登り下りする位）と、とてもタフなサイクルイベントで、たぶん佐渡島1週210kmよりキツイと思いますが、私も一緒にエントリー済みなので初参加のグランfond糸魚川を期待

と不安を抱えながらも心待ちにしています。

最近自転車仲間の皆さんも出張や研究・教育に、休日を使う多忙な日が多くなり、一緒にサイクリングを楽しむ時間的な余裕が年々少なくなっているように感じます。上手にやり繰りしてなんとか時間を作り、ここに書ききれなかった学内・学外の自転車仲間も含めて距離は100km位でもいいから出来るだけ大勢（できれば全員）で楽しいサイクリングを企画・実現させるのが、今の私のささやかな夢です。

読者の皆さんも機会がありましたら、少しでも遠くへ、どんな自転車でもかまわないですから新潟の素晴らしい景色を楽しみながら、サイクリングに挑戦してみてもいかがでしょうか、おすすめです。

「技工部だより」であるにもかかわらず、趣味の話題を好き勝手に書かせていただきました。歯学部ニュースの貴重なスペースと執筆の機会を与えていただいたことに、この場をお借りして感謝申し上げます。

